

NPO法人

全日本語りネットワーク

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-18-3

国分寺マンション B-03A

(FAX) 0237-67-7001

(HP) <http://japankatarinet.jp/>

(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(振替) 00130-2-114808

2026. 1. 20 発行

ニュース

「語りの種 民話を語り継ぐこと」

入口友里(島根県松江市)

「寝るぞ 寝虫よ 頼むぞ 垂木 なんぞ 襲わば 起こせよ むねの木」

幼い頃、我が家に祖父母が泊まりに来た夜、眠れないでいた私に、祖母がこのおまじないを教えてくれました。すると、祖父が「おらなら、なんぼでも出来いわ」と言って、

「寝るぞ 寝虫よ 頼むぞ たのき(たぬき) なんぞ 襲わば 起こせよ ねむの木」

たぬきは化かすし、ねむの木は眠りの木なのに起きられない！と、大笑い。かえって目が冴えてしまい、眠れませんでした。それ以来、このおまじないはずっと私の心の中で生き続け、お守りになっています。これが後に語りと出会い、その世界に芽吹いていく種だったのかもしれませんが。

本が大好きな子どもだった私は、初めて語りに触れた時、何もないはずの空間に、語る人の声をおして鮮明なイメージが浮かんでくることに驚き、心を揺さぶられました。

大学時代に改めて図書館で語りを聴き、＜やっぱり楽しい！こんな生き生きとしたおはなしを私も語りたい！＞との強い思いが湧き上がってきました。

どうしたら語れるようになるのだろう？個人で学べるところが県内にはなく、バスで片道4時間かけて県外に出かけました。そこでは様々なグループから有志が集まり、日本や外国の昔話を中心に、それぞれが好きな話を持ち寄って語られていました。その中で、地元・鳥取に伝わるおはなしを語ってくださった方がいらして、＜その土地で伝わってきたおはなしもあるんだ！＞と、大発見。自分が生まれ、今も住んでいる島根のおはなしについても知りたいと思うようになりました。

メンバーの方から「語りたければ、まずはたくさん聴きなさい」と、アドバイスを受けた直後に「全日本語りの祭り in 松江」が開催され、山陰の民話や神話の語りに初めて触れることができました。そこで、民話の研究者や語り手の方々と出会い、「ぜひ、地元の人が地元のはなしを語ってほしい」、「聴いてくれて嬉しい」、「あなたならきっと出来ます。楽しみにしていますから」と歓迎され、とても温かい気持ちになり、ぜひ地元のおはなしの語りに挑戦してみたいと感じました。その時の出会いが語りへの出発点となり、現在の活動の支えになっています。

実際に活動を始めてから、広く一般に知られている「桃太郎」や「鶴の恩返し」といったおはなしも、地域によって少しずつ異なっていることが興味深く、土地に根差したものに価値を見出し伝えていくことが大切なのではないかと感じるようになりました。人と同じでなくていいし、自由に自分の言葉で表現できるところが、私には合っているのだと思います。

もう一つの原動力となっているのが、大学の世界遺産学部での学びです。そこでは有形の遺産が大半を占め、無形の遺産については伝統芸能が中心のカリキュラムの中で、＜何かが足りない＞と感じていました。もっと庶民の生活に根差したもので、より多くの人が親しんできたものはないのだろうか？と。その時の問いが、今関わっている語り・わらべうたの活動に繋がり、学びが深まっているのだとしたら、こんなに嬉しいことはありません。

語りは人の心と心を繋ぎ平和な社会を創るものだと、様々な方から伺いました。私も語りを楽しみながら、活動をとおして子どもたちや若い世代の人たちとも心を繋いでいけたらいいなと思っています。